



青山学院  
AOYAMAGAKUIN

ニュースリリース  
NEWS RELEASE

2008年2月28日

報道機関各位

## 青山学院 4-4-4 制に基づく12年間一貫制英語教材を開発 2008年4月より初等部に導入

学校法人青山学院(東京都渋谷区渋谷 4-4-25 理事長 松澤建)は、独自のカリキュラムとシラバスに基づく英語教材(CD付)を開発し、2008年4月より、初等部1年生と5年生に導入します。順次上の学年の教材を開発し、2014年に12学年すべての教材が完成する予定です。

青山学院は、日本で初めて、小学校から高等学校までの12年間の教材を一貫するカリキュラムに基づいて作成するという構想に着手いたしました。開発した教材は青山学院に限定されるものではなく、青山学院の教育理念を広く社会にも提供していきたいと願っています。

青山学院では、1999年に深町正信院長の下に、初等部から大学までの教員で構成する青山学院英語教育研究センターを設置し、英語教育の充実・発展のための研究活動を行い、「英語の青山」の伝統を維持・進化させてきました。青山学院英語教育研究センターでは、一貫教育校の特性を活かして、理論的・応用的な研究や調査を行ってきた結果、初等部・中等部・高等部の12年間を、児童・生徒の発達段階に合わせて、第1期(初等部1~4年生)、第2期(初等部5年生~中等部2年生)、第3期(中等部3年生~高等部3年生)とする4-4-4制の理論に基づく教材の開発に至りました。

### (4-4-4 制に基づく一貫制英語教材の特徴)

児童・生徒の発達段階を十分考慮し、「コミュニケーション能力(Communicative Competence)」育成のためのシラバスに基づいて、12年を一貫した教材を作成します。12年を通して語彙の拡充を図りながら、各期で設定した目標を、学年毎に具現化した内容を横断的に備えつつも、縦断的な学習成果が得られるようにしています。

第1期は、主に英語学習の楽しさと、「言語の使用場面と働き」を意識した、基礎的かつ多面的な言語活動が可能となる内容を盛り込み、Listening 及び Speaking を中心とする基本的対人伝達能力(BICS)の基礎を築く

第2期は、BICS をベースにしながら、Reading と Writing を中心とする認知学習言語能力(CALP)の基礎を築く

第3期は、BICS から CALP への比重移動を行ない、最終的には BICS と CALP の融合によるコミュニケーション能力を育成する

### (4-4-4 制に基づく一貫制英語教材の紹介)

「English Series SEED BOOK 1」(第1期第1学年用・CD付)

「English Series SEED BOOK 5」(第2期第1学年用・CD付)

発行・発売 学校法人青山学院 ©2007 AOYAMA GAKUIN

編集協力 株式会社アルク

青山学院購買会にて2008年4月より販売予定

このニュースは青山学院広報室が発信しております 電話 03-3409-6578 FAX03-3486-4712